

THYME+

BastlのTHYME+は、あなたのサウンドを最適化して、従来の枠からあなたを解放します。数多くのパラメーターが手元にあるため、タイムベースエフェクトを深く掘り下げ、その最もワイルドな組み合わせを探求することができます。

ディレイ、フェイザー、リバーブ、コーラス、ピッチシフター、マルチタップディレイ、テープディレイ、トレモロ、ヒバートなど、様々なエフェクトを自由に試すことができます！



For full manual and documentation, scan the QR code.

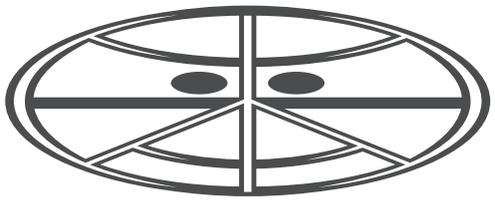
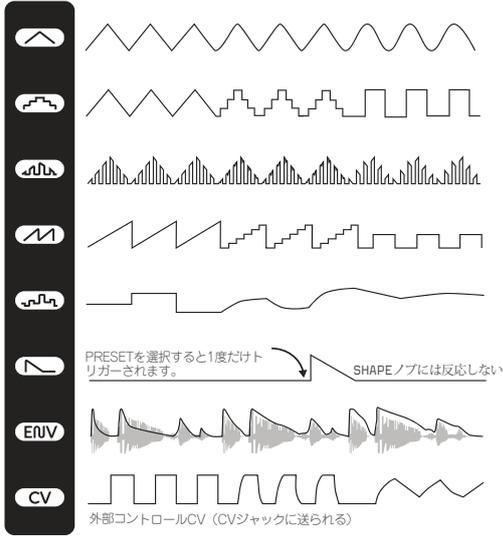
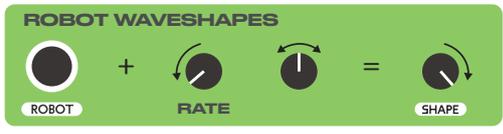
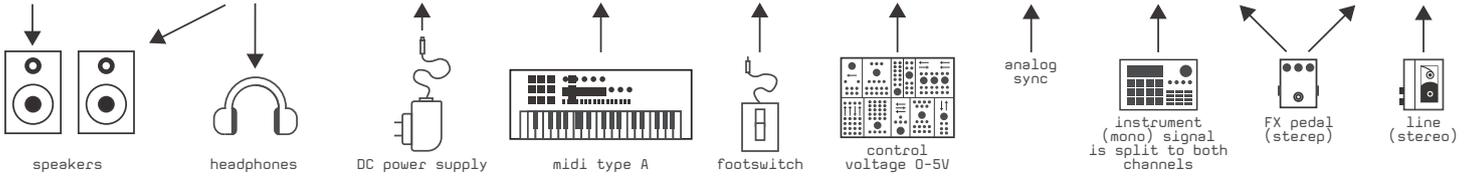
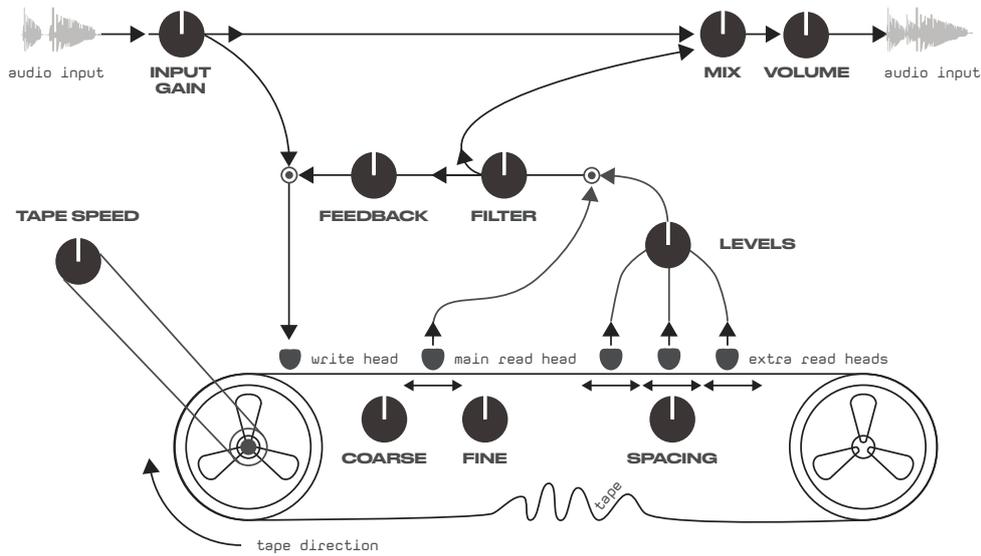
THYME+でできることはたくさんあります。簡単なステップを踏んで、少しずつ理解していきましょう。このクイックスタートガイドでは、以下について説明します：

- ・ テープディレイ
- ・ シーケンサー
- ・ メモリ
- ・ フリーズ

最良の結果を得るためには、書かれている通りに各ステップに従ってください。

SEQUENCEABLE ROBOT-OPERATED DIGITAL TAPE MACHINE

Signal-flow and controls



FREEZE MODE

FREEZEモードは、ディレイタイムで長さを決めた短いループをサンプリングします。

FREEZEを使用すると、長いタイムフレームでドローンを作成したり、短いタイムフレームでサウンドを「ラグ」させたり、最短のディレイタイムでフィードバックピッチを作成したり、緩やかな動きでサウンドをグリッチすることができます。

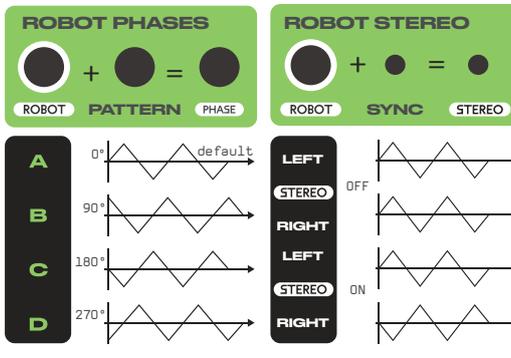
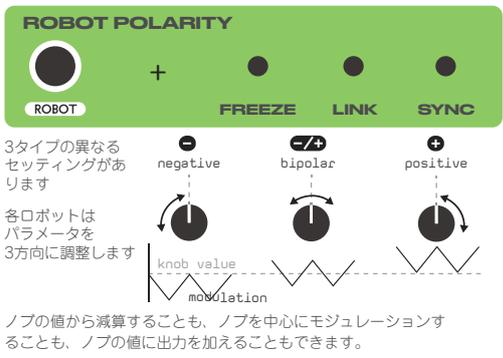
COARSE & FINEノブでフリーズ・ループの長さを変更、FEEDBACKでループの強さをコントロール（右に回しきると、ループは無限に続きます）します。

LEVELSで出力に追加の読み取りヘッドをミックスできます。ノブの後半では、余分なリードヘッドからの信号がフリーズしたループに書き込まれます。

楽しんでください！

BUTTON COMBOS

- #### Tape machine
- SHIFT + FREEZE
 - SHIFT + DELAY SYNC
 - SHIFT + TAPE SPEED
 - SHIFT + FEEDBACK wiggle
 - SHIFT + SPACING wiggle
- テープスピードを半分を設定
テープスピードを2倍に設定
ローファイ/アナログ・テープ
ネガ/ポジ・フィードバック
読み取りヘッドの同期/非同期
- #### Robots
- any KNOB wiggle
 - any KNOB movement
 - SHIFT + SYNC robot
 - SHIFT + PRESET 1-8
 - SHIFT + RATE
 - SHIFT + A/B/C/D PATTERN
 - SHIFT + FREEZE/LINK/SYNC
 - SHIFT + BYPASS
- モジュレーションを選択
モジュレーション量の設定
ステレオロボットモード
LFO波形を選択
波形のシェイプを調整
LFOの位相を選択
ロボットの極性を選択
選択したロボットを消去
- #### Sequencer and clock
- WRITE + PRESET 1-8
 - SELECT + PRESET 1-8
 - hold PRESET 1-8
 - SHIFT + TAP
 - SHIFT + A/B/C/D
- プリセットを記録 (LIVEモード)
プリセットの選択 (WRITEモード)
サブステップ選択 (WRITEモード)
モード・セレクト・クロック・ソース
テンポ・デバイダーを選択
- #### Memory
- SHIFT + PRESET
 - SHIFT + SELECT
 - SHIFT + WRITE
 - SHIFT + PLAY
 - SHIFT + BYPASS + SHIFT + PRESET
 - SHIFT + BYPASS + PRESET
 - SHIFT + BYPASS + A/B/C/D
 - SHIFT + PRESET 8 + PLAY
- バンクを選択
バンク保存
プリセットのコピー
プリセットのベアスト
バンク消去
プリセット消去
パターン消去
メモリアーマット (テストモード)
- #### Randomize
- SHIFT + LFT
 - SHIFT + FREEZE
 - SHIFT + LINK
 - SHIFT + SYNC
- すべてのロボットパラメータ
テープマンパラメータ
テープとロボットのパラメータ



Midi, hardware test, firmware update

- ボタンを押しながら電源オン
- WRITE
 - PRESET 1-8
 - SHIFT + PRESET 1-8
 - A+B+C+D
 - TAP
- スタート/ストップ・メッセージ
MIDIチャンネル1-8
MIDIチャンネル9-16
ハードウェアテストモード
ブートローダー・モード

1. START HERE

電源、入力信号、出力信号を接続します。

手始めに、楽器を学び、そのプロセスを最もよく聴くためには、ドロウンやアクティブに演奏しなければならぬ楽器の代わりに、シンプルな連続リズム信号を使うのがベストです。

- 空のBANKと空のPRESETSを選択します。(SHIFT + PRESET)



- 空のPRESETを選択します

2. LET THERE BE SOUND

- INPUT GAINを希望のレベルに調整します。緑のランプは信号が入力されていることを示し、赤のランプはクリッピング(信号が大きすぎることを)を示します。
- VOLUMEを調整します。これで信号を聞くことができます!
- 素早くMIXを上下に回してノブのフリーズを解除します。
- DRY(オリジナル)信号とWET(処理済み)信号の間で調整します。

*ノブフリーズは、ノブの設定値を保持する機能です。INPUT GAINとVOLUMEを除くすべてのノブに適用されます。



3. SIMPLE DELAY

ディレイがこの楽器のコアでアナログ・テープ・マシンとして機能します。バーチャルなデジタル「テープ」と、それと相互作用する書き込みヘッドと読み取りヘッドがある!

- ノブのロックを解除し、調整します。メイン・ディレイ・タイムを調整します。
- ディレイ・タイムを正確に調整するにはFINEを使用します。
- FEEDBACKを調整し、書き込みヘッドにフィードバックされる信号の量をコントロールします。

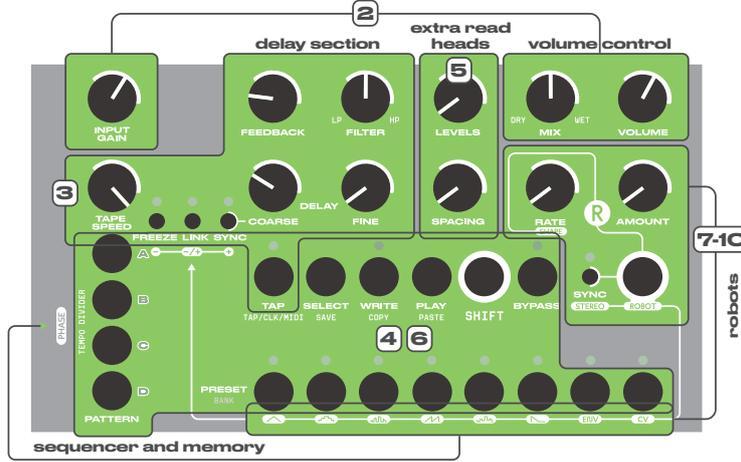
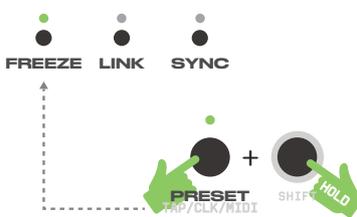
TAPE SPEED はテープの動く速さを変えるので、ループの全体的な長さに影響し、したがってオーディオのサンプルレートにも影響します。ノブを左に回す) テープが遅くなればなるほど、デジタルサウンドアーティファクトが現れます。



LINKを押すと、TAPE SPEEDの調整によるディレイタイムの変化を補正することができます。

- TAPを複数回押して、メインクロックのテンポを設定します。テンポは上の緑色のライトの点滅で示されます*。
- COARSE SYNCボタンを押すと、ディレイタイムがメインクロックに同期します。
- パラメータをすべて調整してみよう!

*ランプが点灯しない場合は、クロックソース(SHIFT + TAP)を確認し、TAPオプションを選択します。設定は3つのランプのいずれかで示されます:



9. EVEN MORE ROBOTS

次の例では、シンプルなトレモロ・エフェクトを作ってみよう!:

- ROBOTを使ってVOLUMEをオートメーションする
- RATE, AMOUNT, VOLUMEを設定する

ロボットはリズムカルな間隔でクロックに同期(クオンタイズド)させることができます:

- ROBOTボタンの隣にあるSYNCボタンを押します

- ROBOTを押しながら、もう一度SYNCを押す。これでモジュレーションがステレオ (STEREO) になる!

同じようにロボットを使ってさらに多くのパラメータをオートメーションしてみてください!

4. COPY & PASTE PRESETS

- PRESETを選択する(または現在のPRESETに留まる)
 - SHIFT + WRITEキーを押して、現在のPRESET設定をコピー
 - 別のPRESETを選択
 - SHIFT + PLAYを押してペースト

5. ADDING DENSITY

テープにさらに3つの読み取りヘッドを追加することができます。これらはメインの読み取りヘッドの後に追加されます。

- LEVELSのロックを解除し、調整します。このノブで3つのリードヘッドの音量レベルを調整します。
- SPACINGで遊んでみてください。このノブで3つのヘッド間の距離を調節します。

* これらのヘッドはFEEDBACKとTAPE SPEEDにも反応する。試してみよう!

6. ERASING A PRESET

もし道に迷ったとしても、慌てることはありません!

- BYPASS + PRESETを押すと、対応するプリセットが消去されます。

デバイスのメモリーに最初のプリセットが残っているので、いつでもそれを再度PASTE (SHIFT + PLAY) することができます。

7. ROBOTS

今こそ、ロボットを使ってパラメータを自動化する方法を学ぶ時です! FILTERパラメータで試してみましょう:

- 空のプリセットを選択します。コピーしたプリセットを再度PASTEする
- FILTERノブを操作します。

左はローパス(LP)、右はハイパス(HP)として機能する

- ROBOTボタンを押したまま、FILTERノブを少し動かす
- ROBOTを保持したままにすると、FILTERノブの上のライトが緑に点灯しています。これは、ROBOTによってモジュレートされるパラメータが選択されたことを示します。



- ROBOTボタンを押したまま、ロボットの波形から1つを選択します。
- ROBOTボタンを離す
- RATEノブとAMOUNTノブを調節して、モジュレーションを設定します。Rランプが、選択したロボットのモジュレーションの状況を示します。



FILTERを調整してみよう。ロボットはノブの位置に反応します。その値はロボットがモジュレートする基準点です。試してみてください。

8. MORE ROBOTS

ロボットを使うと、次のような面白いモジュレーションを作ることができ、以下のようにすれば、例えばフランジャーのようなエフェクトも得られます:

- 新しいPRESETを選択する
- FEEDBACKを調整する
- FINEノブを回してフランジャー効果を聞く
- ROBOTを押しながらFINEを動かす
- ロボットでFINEをオートメーションする
- ROBOTを離し、AMOUNT, RATE, FINEを弄る

波形形状を三角波から正弦波に変更してみよう:

ROBOTをホールドし、RATEを左に回すように回すとシェイプとして機能するようになる。FINEノブをモジュレートするロボットに、別の波形シェイプを選択します:

- ROBOTを押しながら、対応するPRESETボタンを押して希望の波形にします。ランダム・シェイプでサンプル・ホールドのような効果を試してみよう。ノブでエッジを滑らかにします。

すべてのウェーブシェイプは異なる反応をします。気になる方は、可能なウェーブシェイピングのパリエーションをチェックしてみてください。

and NOW it's THYME to COMPOSE

PLAYを押す!

これでシーケンサーが起動し、WRITEランプが点滅し始めます。*

シーケンスにはまだプリセットが記録されていないので、デフォルトではすべてのステップがBYPASSに設定されている。

別のプリセットを一時的に聴くには、対応するPRESETを押し続けます。**

プリセットをシーケンスに録音するには、WRITE + PRESETを押し続けます。

*動作しない場合は、クロックソースがTAPに設定されていることを確認してください。
**動作しない場合は、シーケンサーを停止し、WRITEライトが消灯していることを確認してください。

シーケンスはアクティブなPATTERNに保存されます。4つのPATTERNがあります。

TAPボタンをタップしてシーケンサーのテンポを変更します。

PLAYを押してシーケンサーをオフにすると、シーケンスの最後に再生されたプリセットに留まります。WRITEライトの点滅が止まります。

LIVE MODEでのシーケンサーの動作はご理解いただけたいと思います。

WRITE MODEもあり、より詳細な編集が可能です。

WRITE MODEがどのように機能するかは、THYME+のマニュアルをご覧ください。

いくつかのプリセットを準備・保存したところで、それらをシーケンスにする方法を学びましょう...